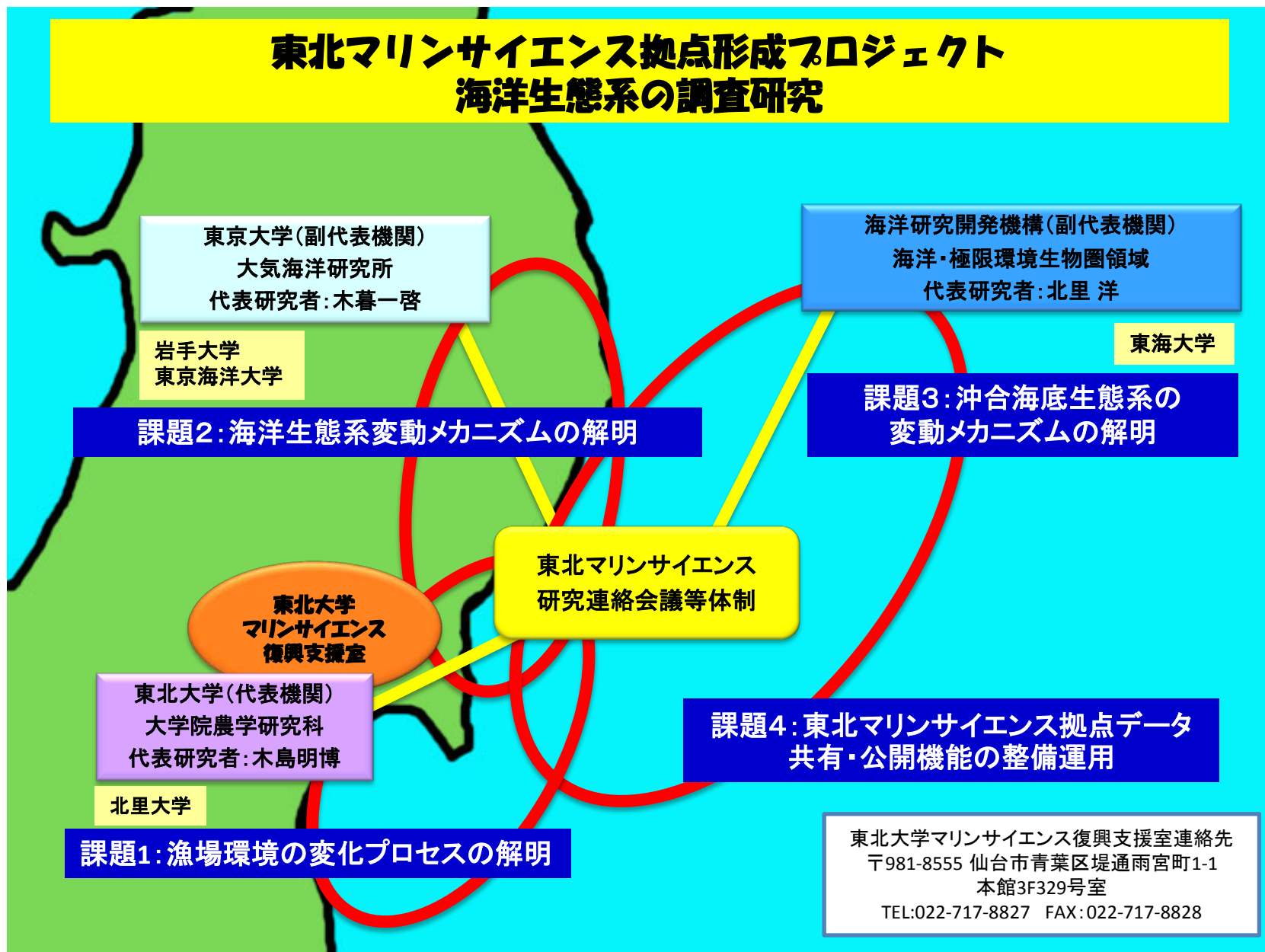


このプロジェクトは、地震・津波が東北沿岸域の海洋生態系に与えた影響と回復経過を科学的に明らかにし、漁業復興に寄与することを目的としています。このために、東北大学、東京大学大気海洋研究所、海洋研究開発機構が連携組織を作り、多くの大学や研究機関に呼びかけ、オールジャパン体制で新たな環境調和・保全を念頭に置いた漁業関連産業復興への道筋を提案します。



課題1: 漁場環境の変化プロセスの解明

海面養殖漁場を含む沿岸漁場における生態環境状態を科学的に捉え、東日本大震災による漁場環境の変化を明らかにすると共に、沿岸産業の災害復興過程における海洋生態系の変化を追跡調査することによって、人為生産と漁場環境の変動機構を明らかにします。このために、女川湾・仙台湾を中心とした研究を展開します。

課題2: 海洋生態系の変動メカニズムの解明

地震と津波が沿岸海洋生態系と物理・化学的環境に対して及ぼした影響を総合的に把握し、その変動機構を明らかにします。得られたデータを基に、沿岸海洋生態系の数値モデルを構築し、漁業の復興を支援する生態系と環境の変動予測に関する科学的知見を提供します。大槌および岩手県北部の沿岸を対象にするとともに、研究船を駆使して沿岸から沖合の総合的な観測と研究を行います。

課題3: 沖合海底生態系の変動メカニズムの解明

沖合海底漁場の資源生物と環境の現状と変動をとらえるために、瓦礫マッピングと分解プロセスを解明、生物資源環境の長期的モニタリング、資源生物の分布・行動と個体群構造の把握、生物への化学物質蓄積動態解析を通じ、漁業の復興に貢献します。また、ハビタットマッピングを実施し生態系管理につなげる情報の整理を行います。

課題4: 東北マリンサイエンス拠点データ共有・公開機能の設備運用

拠点事業で得られたデータを統合し、国内外において広く情報が共有できる公開型のデータベースを構築し、資源管理に繋がるデータの整備を行います。データベースは、被災地の地元自治体や漁業者に対して、生態系の変動や環境予測についての科学的情報を分かりやすい形で提供するとともに、効果的・効率的な漁業のあり方の基礎資料になることを目指します。